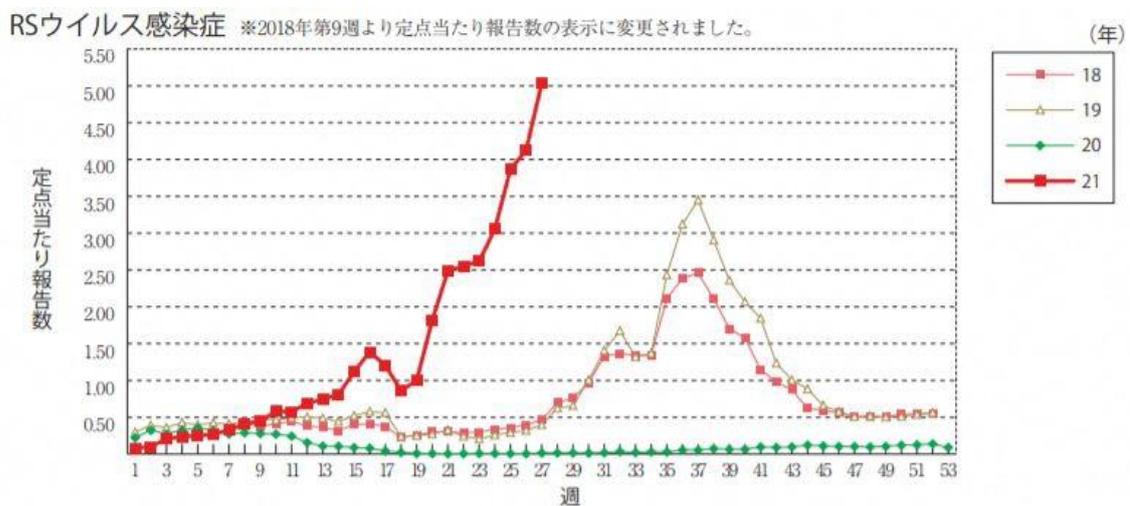


小児科だより vol.59

～ RSウイルス感染症 ～

2021.8.2 発行

こんにちは。連日、夏らしく蒸し暑い日が続いています。こまめに水分（特に糖分や塩分を含んだもの）を摂るように心がけ、クーラーなども有効に活用し、睡眠をしっかりにとって体調を整え、今年も楽しい夏の思い出を作りましょう。



さて、今月の小児科だよりは、以前の小児科だより 2016年9月号 vol.1 にも書いた『RSウイルス感染症』について、改めてお話をさせていただきます。今年は5月頃から御前崎周辺でも流行が始まり、現在、メディアなどでも報道されているように、全国的な大流行となっております。

上のグラフは、国立感染症研究所のホームページから引用させて頂いたものです。これまで、毎年夏の終わりから冬にかけて流行していたRSウイルス感染症ですが、2020年は新型コロナウイルスに対する感染対策などにより、上の緑色の線で示されるように、ほぼ発生しておりませんでした。今年は上の赤で示す線の通り、通年より早く5月ころから、高い山（大勢の患者数）となって発生しています。これまで1年半の医学的な経験として、新型コロナウイルス感染症は、子どもにとって、重症化は殆どないものですが、RSウイルス感染症は、一定数の重症者を必ず発生させるものです。

特に初めてかかった時に重症化しやすく、抗ウイルス薬などの特異的な治療がないため、必要に応じて酸素投与、人工呼吸管理などの呼吸サポート、輸液などの全身管理を行います。実際に現在、静岡県内でも小児用の入院病床が、RSウイルス感染症により、逼迫している状況です。病気の詳しい説明は、病院ホームページの過去の小児科だより vol.1 なども参考にさせていただきますと幸いです。また、小児科外来に、もう一度資料として置かせて頂きますので、御覧下さい。